

NEWSLETTER 第12号

学習支援事業を実施しています

今年度は、子どもたちへの学習支援事業として、「学習支援室あっぷる〜む」をはじめ、市内外の子ども食堂などで勉強のサポートやおしゃべりといった活動を通し、子どもたちの居場所づくりを行うことを目的としたボランティア活動が、対面形式で再開されました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う対策により一時休止となり、オンラインで実施されることもありましたが、参加した子どもたちは、積極的に大学生に質問したりとおうち時間を有意義に過ごしています。

オンラインで実施される「Zoomおんらin」は、子ども食堂、学習支援事業利用児童や、放課後の居場所を必要としている小・中学生を対象に、放課後の居場所づくりや学習時間の確保を目的に、毎週水曜日16時30分から19時にミーティングアプリ「Zoom」を利用して実施しております。

スマートフォン、タブレット、パソコンのいずれかがあれば学習会場だけでなく、自宅から個人での参加も可能です。

詳細や、利用希望の際は当センターまでお電話かメールでご相談ください。

▼大学生ボランティア大募集中！

現在、子どもたちの需要に対して大学生ボランティアの数が足りない状況です。子どもたちの学習習慣を確立するためには、毎週定期的な学習会の開催が必要となるため、多くの学生ボランティアの皆さんの協力が必要です。

本事業に興味のある方は是非、ボランティアセンターへご連絡ください。ポケットWi-Fiレンタル、ホワイトボード等必要物品の支給を行っており、参加前にはオリエンテーションや事業見学もありますので、初めての方でも安心して御参加いただける環境を整えております。

詳細はホームページをご覧ください。皆様の参加をお待ちしております!!



在宅学生と在宅利用者の様子



令和2年度野田村支援交流活動 追悼行事

令和3年3月11日(木)、令和2年度野田村支援交流活動(追悼行事)のパブリックビューイングを開催しました。

今年度の野田村支援交流活動(追悼行事)は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、現地へは教員と学生のみが参加し、追悼行事と野田村の復興状況のレポートが行われました。パブリックビューイングの会場は弘前市の他、大阪大学にも設けられ合わせて約35名の参加がありました。

本事業の前半は、震災の記憶、経験や教訓を忘れず後世に伝承するために設置された野田村保健センターの復興展示室から中継を行い、震災直後の状況や現在の状況について現地野田村のスタッフから解説が行われ、当時の状況について参加学生と質疑応答などがされました。また、追悼式会場であるほたてん

ぼうだいへの移動中には、現在の野田村の様子をバス内から中継しました。

事業の後半は、てんぼうだいに設置された大津波記念碑の前で東日本震災追悼行事が行われ、地震発生時刻の14時26分にサイレンが鳴り、黙とうが行われました。

参加者からは、「コロナで野田村へ行くことはできなかったが、リモートで野田村の様子が見られてよかった」「早く野田村に行きたい」などの感想が寄せられました。

本センターでは、震災の記憶を風化させず、野田村との交流を活発にするために、今後も野田村支援交流活動を継続して実施する予定です。



学生による中継の様子



ボランティアへのご参加、募集等について

ボランティアへの参加について

ボランティアに関心をお持ちの方は下記までお問合せください。

- ・弘前市民の方・・・弘前市ボランティア支援センター TEL：0172-38-5595
- ・弘前大学関係者・・・弘前大学地域創生本部ボランティアセンター E-mail：huvvc@hirosaki-u.ac.jp

学生ボランティアの募集の周知依頼、派遣依頼

学生ボランティアを募集したい団体からの周知、派遣要請を受け付けております。詳しくはボランティアセンターのホームページをご覧ください。センターへ直接お電話等でご相談ください。(※各種申請書類提出後、団体登録の可否、ボランティア要請の審議をさせていただきます。審査等に期間を要しますので、余裕を持って登録申請等行っていただきますようお願いいたします。)

- ・弘前大学地域創生本部ボランティアセンター
 …HP：https://huvvc.net/ TEL：0172-39-3268 平日午前10時～午後3時



パブリックビューイング会場(弘前)



第1回野田村支援交流活動をオンライン上で実施しました

令和3年8月1日(日)に今年度第1回目となる野田村支援交流活動として、Zoomを利用したオンライン夏祭りを開催しました。

当ボランティアセンターでは、平成23年3月11日に発生した東日本大震災によって甚大な被害を受けた岩手県九戸郡野田村へ、震災直後から支援を行ってきました。近年は、震災復興活動から交流活動へシフトし、野田村にて様々な活動を行ってきましたが、昨年から流行している新型コロナウイルス感染症拡大を考慮し、今年度もオンライン上での交流を行いました。

今年度のオンライン夏祭りは、Zoomを利用し、野田村新町地区コミュニティセンターの野田村会場と、弘前市民文化交流館ホールの弘前会場の2つのパブリックビューイング会場、自宅からの参加者をつないで実施しました。

夏祭りでは、弘前大学三味線サークルによる津軽三味線の生演奏を鑑賞したあと、参加者がオンラインを通じて盆踊りを楽しみました。当該活動へは、弘前市民12名、野田村民20名、学生9名、Zoom参加者5名、関係者5名の計51名の参加がありました。参加者からは「コロナが落ち着いたら直接会いに行きたい」「オンラインではあるが、野田村の元気な様子が見られてよかった」などの感想が多く聞かれました。

当センターでは、交流活動を中心とした継続的な支援を通じて、震災の記憶を風化させることなく、次世代へつなぐことが重要であると考えており、今後も交流活動を継続していく予定です。



弘前会場の様子



野田村盆踊り



三味線サークルによる演奏



野田村会場の様子

基礎ゼミでのボランティアセンター見学を実施しました

令和3年5月10日(月)、当センターでは学生へのボランティア活動周知の一環として、人文社会科学部新入生を対象にした基礎ゼミでのボランティアセンター見学を試行的に実施しました。

学生の中には、ボランティアセンターの場所を知らない学生も多く、ボランティアセンターの見学を通じて、ボラン

ティア活動周知の一環として、人文社会科学部新入生を対象にした基礎ゼミでのボランティアセンター見学を試行的に実施しました。に関心はあるが参加への一歩を踏み出すことができなかった学生に、気軽にボランティアセンターへ足を運んでもらうことを目的としています。

ボランティアセンターの設立から、現在に至るまでの活動がパネル展示と映像で紹介され、学生は熱心に見学していました。来年度は全学部を対象に実施する予定です。

青森県警サイバー防犯ボランティアの委嘱と活動

当ボランティアセンターでは平成29年度から、青森県警察本部が実施するサイバー防犯に係る取組の一環であるサイバー防犯ボランティアへの参加学生募集及び派遣に対して協力を行っています。

令和3年6月22日(火)、弘前大学創立50周年記念会館2階岩木ホールにて、令和3年度の「弘前大学学生に対する青森県警察サイバー防犯ボランティア委嘱状交付式」を開催しました。

交付式では、委嘱された7名の学生を代表して、医学部保健学科4年木村 祥さんが委嘱状の交付を受け、決意表明として「安全・安心なサイバー空間の確保に貢献する」と力強い言葉で宣誓が行われました。

7月20日に第一中学校で、委嘱メンバーで作成した資料を基に、インターネットやSNS、スマホアプリなどの危険性や被害にあった際の対処法などの啓蒙活動を実施しました。



記念撮影



代表宣誓

令和3年8月豪雨災害支援金募金箱を設置しています

令和3年8月9日からむつ市大畑地区を中心に記録的な大雨が襲い、土砂崩れや落石が相次いだことにより河川や水路が氾濫。橋の崩落、農地の浸水、道路の冠水、家屋の浸水被害等、各地で災害が発生しました。さらに、停電や断水などライフラインも寸断され、甚大な被害が報告されています。道路が寸断されたことにより、一部地区住民や宿泊客などが一時孤立状態となり、自衛隊に災害派遣を要請するなど、下北全体で大規模な災害となりました。

当該災害に対し、当センターでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、現地へ赴き支援活動を行うことができないため、災害緊急対応として下記の場所に募金箱を設置し、募金活動を開始しました。(新型コロナウイルス感染症拡大防

止のため、非対面形式で実施)

- ・ボランティアセンター前(弘前大学学生会館2階)
- ・附属図書館1階サービスカウンター
- ・弘前大学生協同組合キャンパスコンビニ Cerisier店(文京町キャンパス)

本活動は、被災地支援であるとともに、災害を風化させないことを目的の一つとして、今年度中のセンター主催事業などでの周知などを行う予定です。

集まった支援金は本センター会議の承認を受け、適切な受入先に贈呈する予定です。

募金箱の設置は令和4年3月31日まで継続いたします。引き続き皆様のご支援を宜しくお願いいたします。



ボランティアセンター前の特設募金箱



ボランティアセンター前の特設募金箱